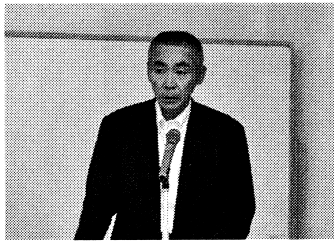


補修フォーラム・金沢

剥落防止対策等を解説

JCMA



「フォーラム」を石川県金沢市の市立ものづくり会館で開催した。

冒頭、主催者を代表して挨拶にたった徳納会長は「広島で約16年前に協会を発足。広島は海砂による塩害、融雪剤による塩害、アルカリシリカ反応(ASR)が多い土地。過酷な劣化環境の中で、私達は補修に取り組んできた。最初は失敗も多かったが長年やっているう

ちに失敗をしない工法というものが解ってきた」と協会の取り組みを紹介。各地の要望にこたえて全国25か所で講習会を順次開催している」と経緯を述べた。また、「昨年まではコンクリートの劣化のメカニズム、そしてその対処方法に重点を置いて開催してきた。今年は補修等を前提の考え方について重点を置いた内容のものとしている。我々は工法協会ではない。我々は工法協会ではない。有効な新しい技術を議論をしながら推進して

いく」とし、補修工法選定の考え方や塗るだけでコンクリート片の剥落を防止することができる」とされる塗膜型剥落防止システムを題材としたものであることを説明した。写真。

同講習会は、二部構成で進められ、一部では極東興和の江良和徳氏が「コンクリートの劣化と補修工法選定の考え方」と題して、塩害、中性化、ASRといったコンクリート構造物の劣化要因に対応した補修・補強工法選定の考え方等について講演。第二部では日本ペイント販売のコンクリート診断士・中丸大輔氏が「コンクリート剥落防止と塗膜型剥落防止システムについて」と題して、塩害対策では電気防食同様に注目されている新技術の解説を行った。

同講習会は5月8日の福岡会場を皮切りに、8月8日の札幌会場まで、各地で開催されている。日程・参加申し込みは同協会ホームページに詳細が掲載されている。なお、CPDプログラムとして土木学会の認定を受けている。